



◆環境課
☎ 587 - 6003
FAX 587 - 3834

☆旧の市指定ごみ袋
(シール)は、平成
24年3月31日まで
使えます!

ちゃんと守って！ 空きビンの排出ルール



空きビンは細かく砕かれて
ガラスビンの原料になりま
す。丈夫なガラスビンをつく
るためには、排出ルールを守
ることが大切です。リサイク
ルに出す前にもう一度チェッ
クをお願いします。

①キャップを取る！
アルミキャップや王冠など
が付いたまま排出されると、
ガラスビンの強度が低下する
ため、必ずキャップ等を取っ
てください。外れにくい中栓
は無理に取らずに、そのまま
排出してください。

②中をさっと洗う！
空きビンの中身が残って汚
れていると、リサイクルの工
程で悪臭が発生し非常に不衛
生です。中身を出して、中を
軽くゆすいでください。

③空きビンとして出せないものは？
○ガラス製の鍋や皿などの耐
熱ガラス
○クリスタルガラス製のコッ
プや灰皿、電球や蛍光灯
○茶碗や湯のみ、コーヒー
カップなどの陶磁器類
以上のもは、ガラスビン
の原料にならないため燃えな
いごみで出してください。

○農薬のビン
※農薬等が入ったビンについ
ては、市で収集および処理が
できないため販売店にご相談
ください。

④ビンを軽くする(リデュース)
ご存じですか？ビンの3R

従来に比べて、厚みを薄く

琵琶湖を不法投棄から守ろう

独立行政法人水資源機構は、湖岸堤および湖岸に設置されている樋門、水門などの施設巡視をしています。湖岸堤周辺では、テレビ、冷蔵庫などの家電製品や、自転車、タイヤ、剪定枝などの粗大ごみの不法投棄が後を絶ちません。

昨年も4～12月に90件の不法投棄がありました。このうち南湖東岸周辺で6割近くを占めています。

ごみの投棄は、景観上の問題だけでなく、生態系への影響や水質汚染にもつながる可能性があります。琵琶湖の豊かな自然環境を守るために、市民の皆さんのご協力をお願いします。まず、ごみは地域で定められた方法で処分しましょう。また、琵琶湖周辺で不法なごみ投棄、産業廃棄物を投棄している現場を見かけたり、不法投棄されたものをみつけた時には、警察(110番)または水資源機構管理所へご連絡ください。

なお、不法投棄に対する罰則が昨年5月から強化され、法人に対しては最大3億円、個人に対しては最大1,000万円の罰金となっています。

琵琶湖は、豊かな自然に恵まれているだけでなく、生活用水の水源地でもあります。不法投棄をなくし、琵琶湖の水質保全、環境保全に努めましょう。



問い合わせ…水資源機構
琵琶湖開発総合管理所湖
南管理所 ☎ 568 - 4102、
FAX 568 - 1865、夜間・休
日 ☎ 574 - 0680

後を絶たない家電製品などの
不法投棄

毎月第4土曜は 廃食用油回収の日

4月23日(土) 午前10時～正午

回収会場：市役所別館横電話ボックス付近
回収物：廃食用油、牛乳パック、アルミ缶
問環境課 ☎ 587 - 6003、エコロジーマー
ケットやすの会・増村 ☎ 586 - 1441

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(79)

歴史民俗博物館

☎587-4410、Fax587-4413

【4月の休館日】月曜・火曜日

◆テーマ展 野洲の古文書 (9) 比江のくらしといのり—長澤神社文書を読み解く—
／4月17日(日)まで

野洲市比江の長澤神社に伝わる古文書から地域の歴史やくらしを紹介。

◆野洲駅開業 120周年展「鉄道・駅・まち」
／4月23日(土)～6月26日(日)

野洲駅や鉄道、まちのあゆみを資料や写真で紹介。

協力…JR 野洲駅

昭和40年代の駅前通り



なつかしの野洲駅

—今年に野洲駅開業120周年—

野洲駅は、市の玄関口であり、市民をはじめ多くの人々が日々利用し、親しまれてきました。今年、開業120周年を迎えます。

鉄道は、1889（明治22）年に「湖東線」が完成し、東京と神戸間の東海道線が全線開通しました。野洲駅はその2年後、1891（明治24）年6月16日に開業し、草津駅と八幡駅（現、近江八幡駅）の間に新しい駅が誕生しました。その後、1938（昭和13）年と1972（昭和47）年の2度改築され、現

在の駅舎になっています。写真は昭和40年代、今の駅舎に改修される以前の姿です。通勤や通学で多くの人々が降り降りする朝の風景で、行き交う人の服装から、ミニスカートやパンタロンが流行していたことがうかがえます。この頃の野洲駅は、瓦葺きの平屋の駅舎でした。出入口は南口のみで、改札を通るとすぐに下り線のホームへ入ることができ、上り線へは陸橋を渡ってホームへ降りるようになっていました。入口左側の電話ボックスの横に見えるまるい郵便ポストが、時代を物語っています。かつての国鉄駅舎によくみられるたたずまいで、懐かしむ人も多いと思います。

駅前通りの様子を見ると、停まっているバスや、駅へ向かうタクシースの姿があります。ロータリーや歩道は整備されていませんでした。また、当時は駅の北口がなかったため、中主方面へのバスも南口から発着していて、バス待合所に「兵主・吉川・守山方面のりば」の看板があります。

通り沿いには大衆食堂などの商店が軒を連ね、にぎわいをみせています。自動車などの交通量は少ないものの、多くの乗降客があった様子がうかがえます。

現在の駅舎は、1972（昭和47）年12月に完成し、改札を陸橋の上に設けた橋上駅に生まれ変わりました。これに先立ち、電車基地（野洲電車区）が1970（昭和45）年

に創設されます。京都や大阪への利便性が増したことで、住宅や団地、工場が造られ、人口も増加の一途をたどり、まちが大きく発展していく時代を迎えます。

撮影された藤村和夫さんによると、駅がまもなく新しく改修されることを知り、この姿をぜひとも記録に残したいとの思いからカメラに収められた写真です。当時は、誰もが目にしていたはずの光景ですが、日常の姿を伝える写真

は意外になく、今では貴重な記録です。この機会に、野洲駅のあゆみや、まちの身近な移り変わりを再発見してみてください。 (博物館学芸員 行俊勉)



昭和40年代の野洲駅
写真はいずれも、藤村和夫さん撮影